

「コットンから 次の東北をつくりたい。」

「東北コットンプロジェクト 2016 収穫祭」に参加しました  
11/26 (土)、宮城県東松島農場で綿花を収穫 地元の方とも交流しました



株式会社コックスは、東北復興支援のひとつとして「東北コットンプロジェクト」に2012年より参加し、支援商品の販売や綿花の種まき・草取りなどのボランティア活動に取り組んでいます。本年も、11月26日(土)に宮城県東松島市の農場で開催された「東北コットンプロジェクト2016 収穫祭」に当社従業員が参加しました。企業からの参加者や地元の方々など、当日集まったのはなんと総勢約200名。みんなで真っ白に弾けた綿花をひとつずつ手作業で収穫しました。



当日は雲ひとつない晴天で、絶好の収穫祭日和。東松島農場の赤坂さんから摘み方の説明を受け、早速収穫スタートです。大きくふわふわの綿花は、指でつまむとスーッと綺麗に実から離れます。初めての方でも簡単にでき、おもしろいように獲れるので、1人にひとつずつ渡された収穫用のネットはほんの1時間程でみるみる満杯になっていきました。

種まきから収穫の日まで、たくさんの方の手間や想いとともにつけた東北のコットン。農場を見渡すと一面に広がる真っ白い綿花と、この日のために集まったたくさんの方々。このプロジェクトで育てたコットンの意味を、改めて考えさせられました。収穫の作業中も、自然と笑顔がこぼれます。

この日収穫したコットンの一部は、紡績から商品化を経て2018年3月に当社から発売予定です。心を込めてひとつずつ摘み取ったコットンが、お客さまの手に届く日が今から待ち遠しいです。



収穫後は、特設ステージで和太鼓の演奏やフラダンスが披露され、参加者を楽しませました。また、東北の名産品をはじめとする物品販売のブースや、お米など豪華賞品が当たる全員参加の抽選会などたくさんの催しが用意されており、会場は終始活気に溢れていました。綿花の茎を混ぜた紙で作られたメモ帳など、「東北コットンプロジェクト」オリジナルグッズも販売されていました。

昼食は、地元の方々が用意して下さった温かい豚汁が無料で振る舞われたほか、地元の焼き牡蠣やじゃがバター、カレーなどが格安で提供されました。体を動かした後のおいしい食事に、自然と心もほぐれ、地元の方々と参加者同士の交流も深まりました。

当社の参加者からは、「地元の方がとても元気で、“被災地の応援”という与える力より、地元の方に与えられる力の方が大きかった。」「1社でできないことが、多くの企業が賛同して実現できたのだと感じた。」「多くの人の協力とつながり、東北の力強さを感じた。」といった声が聞かれました。

今回参加した一人ひとりが、実際に綿花や地元の方々と触れ合うことで、改めて私たちにできることを見つめ直した1日でした。

## 東北コットンプロジェクトとは

「東北コットンプロジェクト」は、東日本大震災の津波により稲作が困難になった農地において、塩害に強い「綿」の栽培から、紡績・生地化・商品化・販売までを一貫して実施する復興支援プロジェクトです。長期視点で被災地の復興を考える農家と企業が集まり、農業を基盤とした東北の新たな農産物の確立を目指しています。

全国で店舗を展開し、東日本大震災で甚大な被害が出た東北地方にも多数の店舗を出している当社は、ファッションアパレル企業として被災地にできることをしようと、この活動への参加を決めました。商品をお買い上げいただくことで、お客さまご自身にも被災地支援にご参加いただける取り組みです。また商品の発売だけでなく、種まきや草取り、今回参加した収穫などの活動も継続的に行なっています。



コックスは今後も引き続き、1日でも早い東北の復興を願い、ファッションを通じた様々な支援活動を行なってまいります。